

ワクチンの俯瞰的・深層の実情を見よう

Greatchain

2021/06/22

今、世界的に暴力の時代である。何と何が戦っているか？ 善と悪である。神と悪魔である。これが理解できなければ、何も理解できない。何も理解できなければ、我々は必ずより劣った者の方へ自然に導かれ、その者が指導者のような立場に立つなら、彼は必ず民衆を間違った方向へ導くだろう。こういう者たちが、**国家-主流メディア連合体**として、我々を途方もない方向へ向かわせないように願いたい。たった今、小さなニュースで知ったことだが、フィリピンのドゥテルテ大統領が、ワクチンを打たない者は処刑すると言ったという。これが本当なら、彼は国だけでなく、世界を滅ぼす悪魔の仲間に入ったということである。

私は Infowars という、アレックス・ジョーンズの仲間のニュースをよく訳しているが、彼らは神と悪魔の対立の上に立ち、信仰を何度も口にして、旗幟を鮮明にしている。そのため彼らの世界情勢解説は、わかり易く自信にあふれている。いつかアレックスが、南方国境の怪しい場所を訪問し、明かに子供売買とわかる自動車を捕まえたとき、寄ってきた係員たちを大喝して言った、「お前たちはバイデンの手伝いをする馬鹿者だ、恥を知れ！」彼らは一瞬、気色ばんで近寄ったが、すぐに彼が真剣に正義を唱える人だとわかり、納得した。これは神を信じて生きている者が、たくましくして権威を見せた、劇的な瞬間だった。

先日の記事の、まれな IQ を持つ人物の分析も、基本は同じである。彼は、無神論や唯物論を唱える者たちが、どんな悪、または間違いに陥るかを知っている。高い IQ を持つ者は神の存在を知っていることがわかる。そういう人間は、世界をすべて数学で理解し、神など要らないだろう、などと考えるのは、時代遅れの話である。神や道徳を信じなければ、この世界は理解できないが、これは、その逆のサタンに仕える者たちの腹の底が、自然に見えてくるからであり、特別、頭がいいわけではない。

私は、このクリストファー・ランガンという人の、言っていることの趣旨は、「この世にはどうしようもなく、悪を選ばざるをえない、**強いが弱い人間**がいる」ということだと思う。アメリカやヨーロッパには、そのような特殊な人種がいることが、この時勢にいよいよ明らかになってきた。今、アメリカ人の間に漲っているのは、そのような気分だと思われる。バイデンはただ、そのような人種の手先として、無意味に破壊するだけで、何ひとつ積極

的に建設するわけではない。彼らは、バイデンのこの負け戦が、あと何週間、何か月続くかと思って見ている。彼らは基本的にこれを、善悪、神と悪魔の勝負として、自分たちの劇を見ている。

しかし、わが国には、そういう雰囲気がない。まともな大統領が、まともな仕事をしているかのような想定で動いており、これは主流メディアが、政府と協力して創り出したものである。我々一般市民は、それだけを頼りに、つまり、その幻想を現実と信じて行動している。なぜなら一般の我々には——ごくわずかのインターネットを駆使する人々を除いて——まるで鎖国にいるかのように、情報が入ってこないからである。ワクチン情報もその一つである。

私にとって恒常的な恨みは、主流メディアの存在である。彼らはトランプを敵とし、バイデンの側に立って、もっぱらその観点から、ごくわずかの情報だけを我々に与えている。これは彼ら自身が統制されていて、最も重要な知るべき情報は、ほとんど隠されているからである。しかし彼らは、自分が「悪」の側に立っていることは自覚していると思う。困ったことは、それが無神論の立場であって、世間一般はメディアに洗脳されて、それが正しいと信じていることである。この構造は大昔から変わっていない。実はそれは、あらゆる腐敗と非常識を作り出しており、家庭を崩壊させる共産主義はそこから生じ、ダーウィン進化論の歪んだ教育もそこから生ずる。そして「子供売買」やベドフィリアなどは、ひた隠しにされている。これが、どれだけの「悪」を、青少年をはじめ、社会一般にばら撒くかしのれない。

このような者たちが、連日、政府と一緒にあってワクチン運動をするとき、誰がこれを安心して受け入れるだろうか？ このようなワクチン運動の主体は、初めから建設的な意志のない、破壊的な、自棄的で、腐敗したバイデン政権だと考えねばならない。政府に協力して新聞に書き立てる者たちも、バイデンの仲間である。これが仮に、トランプの主宰するワクチン接種大会だったら話は別である。なぜならトランプは負け組ではない。彼はバイデンのように「ワクチンは必ず打て、拒否するなら、それだけの代価を払ってもらおう」というような脅迫はしないからである。またファウチのように「私を批判する者は科学を批判する者だ」などと、「科学暴君」のようなことを言わないからである。

今、わが国で起こっているようなワクチン暴走は、アメリカの政情、特に霊的視点から見た政情を、全く知らない、「鎖国」に住んでいる人たちのやることと言わねばならない。かりにワクチンの中身が「安全で効き目がある」としても、それを勧める者たちが「安全」でもなく、「効き目」もなければ、それはご遠慮申し上げた方が安全である。それは将来の、何らかのよからぬことの、伏線かもしれないからである。あの「アメリカで最も賢い人」

が、「その結果はどうなるかわからないが、決して良い結果にはならない」——この者たちから何の良きものが生ずるだろうか——と言っているのはそれである。

そして現に、アメリカでは、ワクチンに対する完全な不信が根付いている。一回目のワクチンは受けたが、その後ほとんど受けなくなったというのが現状である。そして、それとともに、その有害性が次々と暴露され、有害の事実を唱える人々に対する迫害もまた、明らかになってきた。本当のことを言えない、言わないというのは、最も有害な社会の症状である。